

(日刊建設通信新聞社 掲載許諾済み)

### 3本部長兼任の意義は？

# 連携強化で対応迅速化

6月23日付で、NIPPOの技術本部、建築事業本部、海外事業本部の本部長に中田尚行氏が就任した。3本部長職を兼任し、広い範囲の管掌に当たり、「各部の部長たちが力を発揮し、良い方向に向かっていけるようにするための指導をしていきたい。それぞれの取り組みが正しい方向に向かっていけるのかを判断することが自分の仕事だ」と方針を示す。各本部長の役割や課題、3本部長兼任の意義を聞いた。

## 『そこ』が聞きたい

就任の抱負として、「当社には、『わたしたちは確かなものづくりを通して豊かな社会の実現に貢献します』という企業理念と『信頼を築く』『技を磨き、伝える』『夢をいただき、挑戦する』という行動指針がある。各部門がこの言葉を理解した取り組みをしているかを確認、指導していく」と語る。3本部長のトップを一身に担うというには、「各本部長を横につなぐことで連携を強化し、それぞれの問題や課題をいままですら迅速に処理できるように差配していきたい」としている。



中田 尚行氏  
NIPPO常務執行役員技術本部長、  
建築事業本部長、海外事業本部長

各本部長の役割として、技術本部については「舗装技術の優位性を確保する技術の開発」「将来的に企業経営の「発」を担うことができる舗装技術の創出」を目指す。「技術本部は会社の将来像を模索する役割があるので、あるべき姿を彼らと一緒に考えていき

たい」と意欲をみせる。同本部には総合技術部、エンジン部、アリンク部、環境事業室といった部署が設けられており、喫緊の問題である働き方改革や生産性向上、i-Constructionの推進を始めた多様な課題に各部で取り組んでいる。

建築事業本部については「五輪後の市場環境は厳しい状況となることが予測されるが、中でも社会的な信用・信頼を高めることで事業量を確保し、収益を確保していく。そのためにも、顧客目線での確かなものづくりを大事にしなければならぬ。また、建築事業のブランド力の強化も必要だ」と強調する。

これらの課題を解決するためには「人材」がかぎとなると断言し、社員一人ひとりの能力をいかに高めていくかが問題だとしている。また、「グループ会社の大日本土木との連携によって購買力や技術力、調達力を高めていくことも重要だ」と話す。

海外事業本部については、現地企業などの資本提携による東南アジアを中心とした合材事業の展開に加え、自動車へのテストコースやODA（政府開発援助）案件が事業の柱となっている。

このうち、合材事業は「シャシマー」とタイでプラント稼働しており、この2国での事業活動を活性化させることも、リサイクル技術などを広める方針だ。テストコース関係では、新規の受注を伸ばすだけでなく、これまでに手掛けたコースの修繕・改修に向けた提案力の強化も目指す。

ODAは現在進行中のタンザニアでの工事をしっかり完成させるとともに、その周辺国での継続的な受注を狙う。

新型コロナウイルスの影響については、「一部で工事規模の縮小などが生じているが、『いつ人の往来や工事が再開してもすぐに動けるよう、態勢を整えておかなければならぬ』と気を引き締める。

\* 1982年3月日大大学院工学研究科修了、83年4月日本舗道（現NIPPO）入社。2018年4月合材部長、17年4月四国支店長、19年4月執行役員四国支店長、20年4月常務執行役員を経て、6月から現職。趣味はゴルフ、散歩。千葉県出身。57年12月31日生まれ。62歳。